

# 景況調査

報告書 NO. 44

平成21年 7月～9月 実績  
平成21年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

## 平成21年度第2四半期(H21. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成21年10月

2. 調査対象 (1)対象地区 蒲郡市内

(2)対象(回答)企業 105[100企業、5団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	43 (3)	9 (1)	20 (1)	23	4	6	105 (5)

※ ( )は団体

### 5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前年同期比で見ると△63.8、前期実績(4～6月・△70.1)と比較すると6.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前期比についても△34.3、前期実績(4～6月・△49.6)と比較すると15.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で見ると△22.9、前期実績(4～6月・△39.4)と比較すると16.5ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。また、**収益DI値**については△38.1、前期実績(4～6月・△52.1)と比較すると14.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H21.10～12月)見通し**については、△27.7、前期実績(4～6月・△35.9)と比較すると8.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。

「**製造業**」のうち食料品は、国内食品業界は、個人消費の低迷に加え、海外加工製品との価格競争や安全性への対応など厳しい経営環境が続いている。織物は、主力商品であるジャカードカーテンについては、稼働率は30%前後で推移。白生地織物についても、仕事量は少なく稼働率は50%前後である。先染織物は、先染の仕事が極端に少なく、空台が目立っている。漁網・ロープのうち、漁網関係は受注が一段落、受注残を減らして来ている。繊維ロープは、出荷額は、前年に比して増加傾向であるが、原材料価格が再上昇基調にあり採算面では厳しい現況である。鉄工のうち、工作機械関係は、現在も大幅な受注減に見舞われ、受注活動に必死に取り組んでいるが、出口がまだ見えなく厳しい。自動車部品関連は、自動車がエコカー減税に期待大である。臨時休業も5月から通常稼働となり、その分生産増となり、一息ついている現状である。化学・プラスチックのうち、化学工業は、国内向については、低調に推移。中国向が好調にて、昨年のピーク時に近づいている。国内向については、低調に推移。中国向が好調にて、昨年のピーク時に近づいている。プラスチックは、売上は前年比3割減であったが、原材料価格が下落していたため、利益は出ている現況である。「**建設業**」は、住宅工事は景気悪化の中で雇用不安、賃金カットなどの影響で需要は落ち込み受注は低調に推移している。民間工事と同様に設備投資抑制の中大きく減少している。公共工事では、業界を取り巻く環境は変化なく厳しい状況が続いている。「**卸売業**」のうち繊維卸は、産業資材関連：自動車関係の急激な落ち込みが回復していないため、大変厳しい状況が続いている。寝装関連：9月より秋・冬物の納品が始まり、季節的に商品単価、売上は増加する。夏物全般は不調に終り各メーカーとも在庫を残している。インテリア関連：秋・冬商品の導入期であるが、新柄が非常に少ない為一斉導入による売上増が見込めない。

衣料関連：消費低迷不振にて、売れない。川上は「半分」が普通である。「**小売業**」は、売上の停滞減少をしており、厳しい状況である。不況により、消費者の購買意欲が減少し、衣料他節約できるものについては購入を控える消費者心理が感じられる。天候不順の影響により夏物商品の売上が伸びなかった。飲食は、今期について、特に大きな変化というものはなかった。石油は、SS業界では、低マージンであるセルフ化の進行により販売競争が激化している中、前年同期比で軒並み売上減少となり、ガソリン需要の減退による販売不振がさらに深刻な状況となっている。「**サービス業**」のうち旅館関係は、今期の宿泊客は対前年比マイナスだった。これは天候不順によるところが大きく、今の経済情勢と相まってお金をかけずに旅行する人が増えた。日帰り客は増加した。「**運輸通信業**」のうち旅客・水運は、海運関係：木材の輸入があり、コーカスの輸入、スクラップの輸出がわずかながら再開された。バス業界関係：団体旅行は不況の影響にて減少した。個人旅行は一人当りの単価は下がっているが客数は増加した。

**設備投資状況**は、12事業所(17件)で設備投資が実施され、生産設備・OA機器・車両運搬具・事業用建物が上位にランクした。来期は12事業所(21件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、消費者ニーズの変化の対応、販売納入先からの値下げ要請が項目別・業種別で上位を占めていた。

**当地区においては**依然として、個人消費の低調・急激な円高の進行・設備投資の低調・中国・アジア製品の輸入拡大等の影響を受け、売上DI・収益DI・総合判断DIともに依然として水面下の厳しい状況を示している。当所としては、年末に向けて、中小企業の受注売上減にともなう資金繰り悪化に対応するため、緊急金融相談窓口を通じて各制度融資の普及促進、雇用対策としての教育訓練講座の開催および「新産業創出」を柱とする蒲郡商工会議所アクションプランを更に推進し、地域経済の振興・活性化を図っていく所存である。

### 全業種(当期実績)

(DI 単位：%)

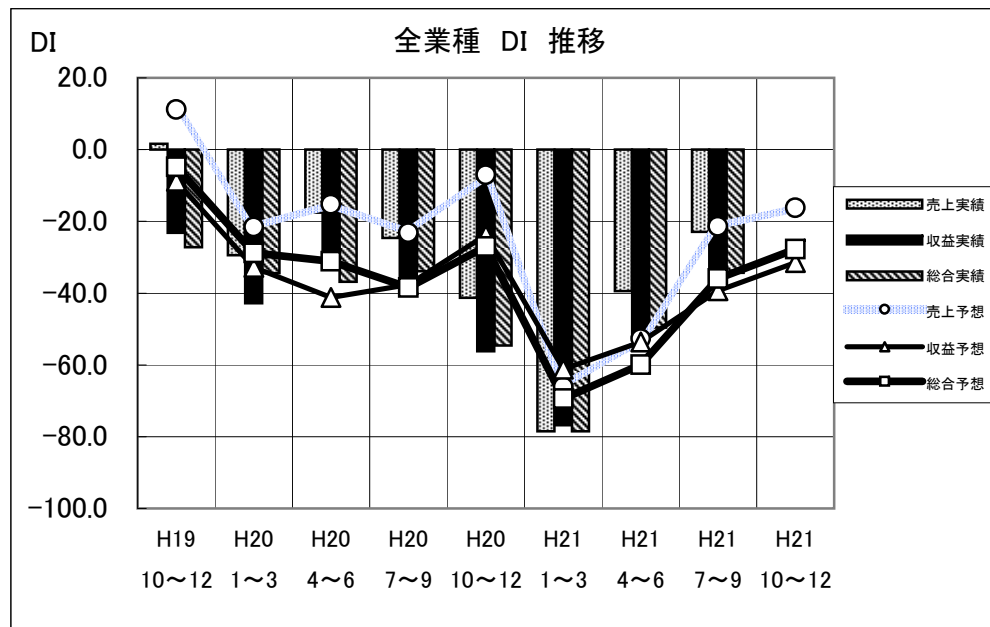
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位：%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
①生産額・売上額	-68.6	-22.9	-16.2	H20. 7～9月実績	-24.6	-24.6	-47.7	-37.7	-43.8	-33.9	-27.0
②製品・商品在庫	-17.2	-19.1	-21.1	H20.10～12月実績	-64.4	-41.3	-63.6	-56.2	-63.6	-54.6	-69.4
③資金繰り	-37.1	-25.7	-27.6	H21. 1～3月実績	-77.6	-78.5	-73.2	-76.8	-75.9	-78.5	-59.9
④採算(収益)	-64.8	-38.1	-31.5	H21. 4～6月実績	-75.2	-39.4	-71.8	-52.1	-70.1	-49.6	-35.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-27.6	-19.1	-11.4	H21. 7～9月実績	-68.6	-22.9	-64.8	-38.1	-63.8	-34.3	-27.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-63.8	-34.3	-27.7								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	1.6	-29.4	-17.6	-24.6	-41.3	-78.5	-39.4	-22.9	-16.2
収益	-23.2	-42.8	-32.0	-37.7	-56.2	-76.8	-52.1	-38.1	-31.5
総合	-27.2	-34.4	-36.8	-33.9	-54.6	-78.5	-49.6	-34.3	-27.7

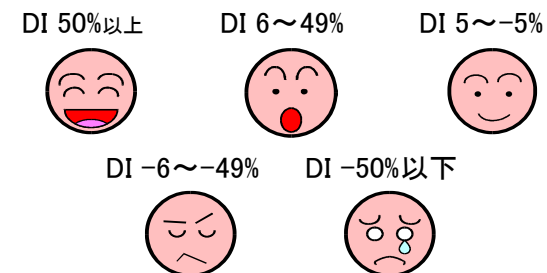
◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について  
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)      採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)  
 製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)      従業員数 :DI=(増加)ー(減少)  
 資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)      業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き  
 DIが0 ⇒ 景気横ばい  
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は9.3、前期実績4～6月期(△18.2)に比して27.5ポイントの上昇。収益DI値は△20.9、前期実績4～6月期(△36.3)に比して15.4ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.7、前期実績4～6月期(△36.3)に比して24.6ポイントの上昇といずれも改善傾向である。  
見通しについても、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-62.8	9.3	7.0
②製品・商品在庫	-13.9	-13.9	-27.9
③資金繰り	-46.5	-18.6	-20.9
④採算(収益)	-58.1	-20.9	-11.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-30.3	-18.6	-11.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-65.1	-11.7	0.0

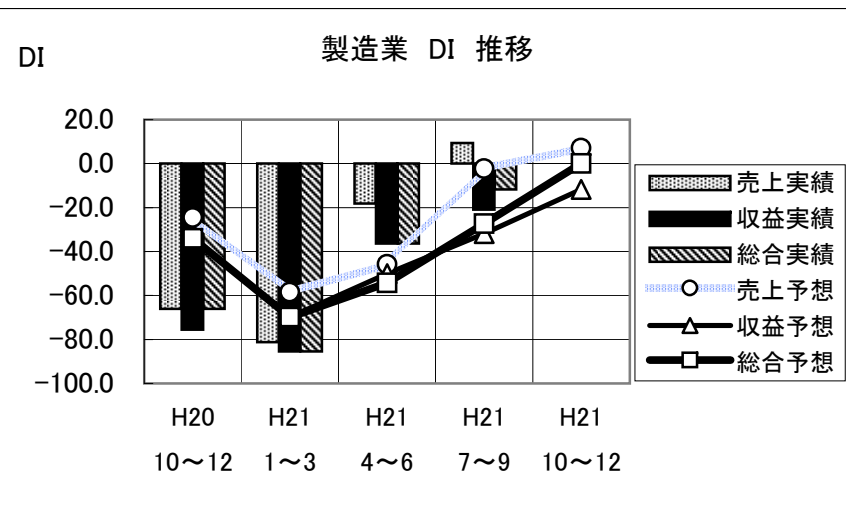
### [食料品]

売上げは前年同期比でDI値△40.0と悪化の傾向にあるが、前回調査より10ポイント上昇しており、改善の兆しが伺える。前期比の売上DI値は0.0と不変。収益は前年同期比、前期比共にDI値△40.0と採算面では依然として深刻さを増している。また、資金繰りでは前年同期比、前期比共にDI値△40.0と悪化の傾向を示しており、事業資金の借入難を経営上の問題点として上げる企業が目立った。総合判断では前年同期比DI値△40.0と、前回調査より10ポイントの上昇。前期比ではDI値20.0と好転。  
向こう3ヶ月の見通し:年末の需要期に入るが、売上DI値、収益DI値、総合判断DI値いずれも△20.0と厳しい状況が続くことが予想される。国内食品業界は、個人消費の低迷に加え、海外加工製品との価格競争や安全性への対応など厳しい経営環境が続いている。今後、消費者へ安心感・安全性を訴求できるような原材料の調達やトレーサビリティの導入の他、いかに消費者ニーズを捉えて価値を訴求できる商品を提供できるかが課題となっている。(食品部会)

### (食料品)

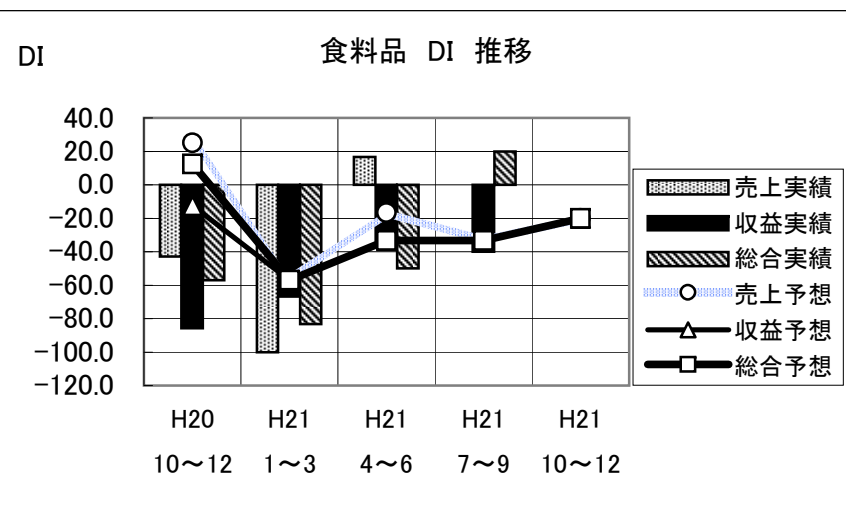
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	0.0	-20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-20.0
③資金繰り	-40.0	-40.0	-20.0
④採算(収益)	-40.0	-40.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	20.0	-20.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-66.1	-81.2	-18.2	9.3	7.0
収益	-75.5	-85.4	-36.3	-20.9	-11.7
総合	-66.0	-85.4	-36.3	-11.7	0.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-42.8	-100.0	16.6	0.0	-20.0
収益	-85.7	-66.7	-33.3	-40.0	-20.0
総合	-57.1	-83.3	-50.0	20.0	-20.0

## [織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、企業により格差はあるが、全体的に仕事量は少なく、稼働率は30%前後で推移している。企業によっては、仕事がなく自然休業となっているケースもある。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は50%前後で推移しており、殆どの企業が作業時間を短縮している。先染織物は、先染の仕事が極端に少なく、空台が目立っている。フル稼働の企業は1社も無い、しかも全ての織物で織工賃は低迷しており、採算面は水面下の状況が続いている。

今後の見通し、ジャカードカーテンは、多少は回復すると思われるが、更に深刻な状況も考えられる。白生地織物は、平織・ドビー織共に仕事量の増加は難しく、現状維持が出来れば良いほうである。先染織物は、春夏物のシーズンに入るが、期待は持てず現状と同じ状況が続くと思われる。採算面は引き続き厳しい状況が続くと思われる。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化している。

(繊維部会)

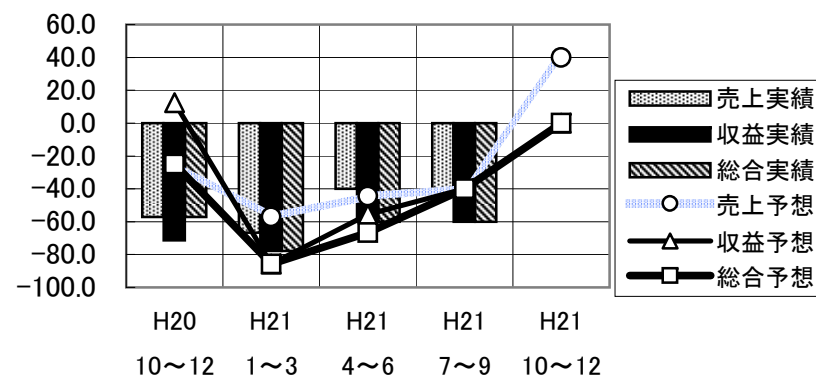
### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-40.0	40.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-40.0
③資金繰り	-40.0	-40.0	-20.0
④採算(収益)	-60.0	-60.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-60.0	0.0

DI

### 織物 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-57.1	-66.7	-40.0	-40.0	40.0
収益	-71.4	-77.8	-60.0	-60.0	0.0
総合	-57.1	-77.8	-60.0	-60.0	0.0

## [漁網・ロープ]

漁網：漁網関係は受注が一段落、受注残を減らして来ているが、特に深刻な状況ではない。陸上関係では、スポーツ防球関係は一段落にて稼働状況は良くない。建築関係では安全ネットの受注が集中して良好な稼働状況である。今後の見通し、受注について上昇傾向を予測している。

繊維ロープ：出荷額は、前年に比して増加傾向であるが、原材料価額が再上昇基調にあり採算面では厳しい現況である。

(繊維ロープ部会)

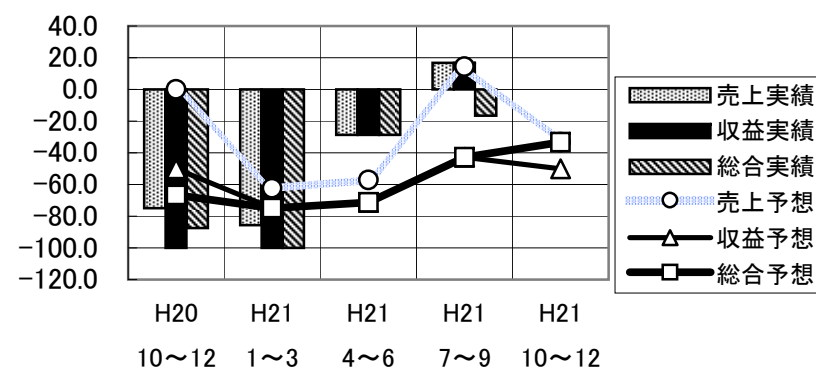
### (漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	16.7	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	-33.3
③資金繰り	-16.7	0.0	-33.3
④採算(収益)	-16.7	16.7	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	-16.7	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-16.6	-33.3

DI

### 漁網・ロープ DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-75.0	-85.7	-28.6	16.7	-33.3
収益	-100.0	-100.0	-28.6	16.7	-50.0
総合	-87.5	-100.0	-28.6	-16.6	-33.3

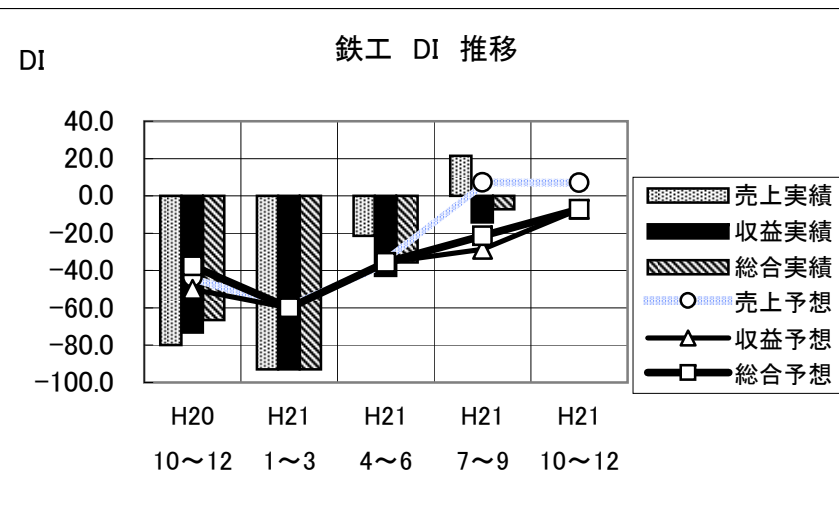


## [鉄工]

<工作機械関係> 現在も大幅な受注減に見舞われ、受注活動に必死に取り組んでいるが、出口はまだ見えなく厳しい。以前の不況時の受注 月500億円に、まだ達していない状況である。各社は非正規従業員を解雇し、正規社員まで雇用調整していないが、時間の問題である。受注は2月を底に少し持ち直しているが、水面下では厳しい。今後の見通しは外需依存の日本では、やはりアメリカ頼みである。設備関係では輸出がプラスになって来てはいるが、全体の受注を押し上げる状態ではない。<自動車部品関係> 自動車はエコカー減税に期待大である。臨時休業も5月から通常稼働となり、その分生産増となり、各社ともホットしている。トヨタ関連は、雇用調整について非正規社員の解雇で一息ついている現状である。今後の海外生産は、中国への生産移転がさらに進んで行く。一方その生産設備の投資で機械メーカーは受注増となっている。(中国の受注増) 今後の見通しはアメリカ大手2社の民事再生法適用で成り行きを待っている。(財政出動に期待)トヨタは、アメリカ・中国の自動車販売について来年には元に戻ると期待しているが、ヨーロッパ・日本は3年後を見据えている。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-92.9	21.4	7.1
②製品・商品在庫	-42.9	-42.9	-35.7
③資金繰り	-71.4	-21.5	-14.3
④採算(収益)	-85.8	-14.3	-7.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-57.1	-14.3	-35.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-85.7	-7.2	-7.2



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-80.0	-92.9	-21.5	21.4	7.1
収益	-73.3	-92.9	-42.9	-14.3	-7.2
総合	-66.6	-92.9	-35.7	-7.2	-7.2

## [化学・プラスチック]

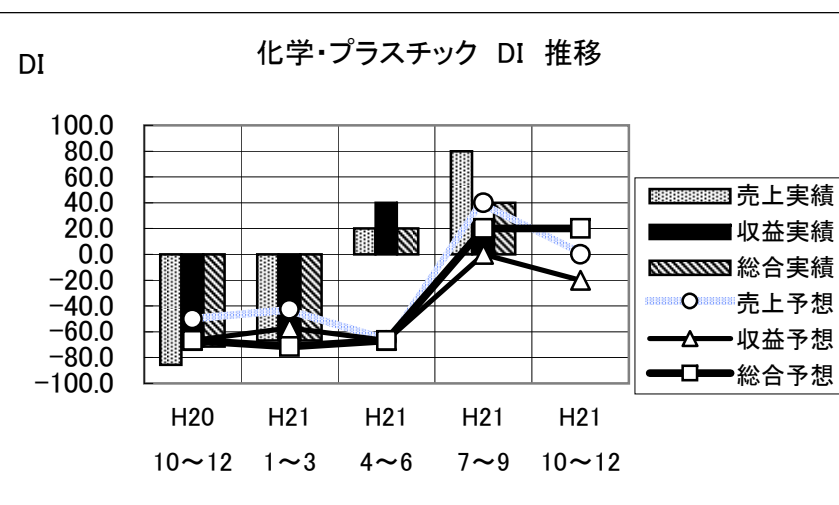
化学工業: 国内向については、低調に推移。中国向が好調にて、昨年のピーク時に近づいている。今後の見通し、販売については、前期並の見通しであるが、原油高による原材料アップにて採算は、下降すると思われる。

プラスチック: 売上は前年比3割減であったが、原材料価格が下落していたため、利益は出ている現況である。今後の見通し、再び原材料価格が上昇傾向にあり、売上は前年比3割減が予測され、厳しい状況が続くと思われる。

(化学部会)

### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	80.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-20.0
③資金繰り	-60.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-20.0	20.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	40.0	20.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-85.7	-66.7	20.0	80.0	0.0
収益	-71.4	-66.7	40.0	20.0	-20.0
総合	-71.4	-66.7	20.0	40.0	20.0

## 建設業

売上DI値は△66.7、前期実績4～6月期(△80.0)に比して13.3ポイントの上昇、収益DI値は△88.9、前期実績4～6月期(△80.0)に比して9.9ポイントの下降、総合判断DI値は△66.7、前期実績4～6月期(△80.0)に比して13.3ポイント上昇と、売上・総合は改善傾向、収益は悪化傾向である。見通しとしては、売上・収益・総合ともに、悪化傾向である。

急激な景気後退により建設業界を取り巻く環境は、厳しさを増している。住宅工事は景気悪化の中で雇用不安、賃金カットなどの影響で需要は落ち込み受注は低調に推移している。民間工事も同様に設備投資抑制の中大きく減少している。公共工事では、業界を取り巻く環境は変化なく厳しい状況が続いている。公共工事の抑制ムードの中、発注が減少傾向にありより厳しい状況が予想される。(建設部会)

### 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	-66.7	-55.6
②製品・商品在庫	-22.2	-22.2	-22.2
③資金繰り	-33.3	-44.4	-66.7
④採算(収益)	-88.9	-88.9	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-44.5	-66.7	-66.7

## 卸売業

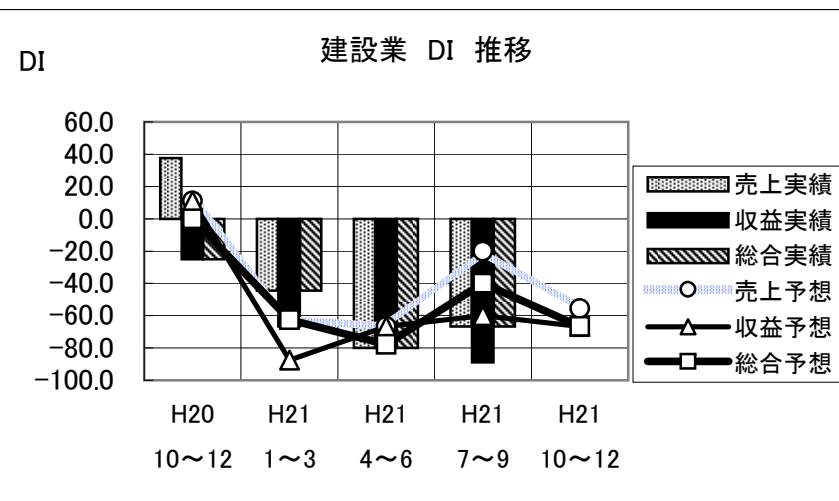
売上DI値は△35.0、前期実績4～6月期(△30.0)に比して5.0ポイントの下降、収益DI値は△45.0、前期実績4～6月期(△40.0)に比して5.0ポイントの下降、総合判断DI値は△55.0、前期実績4～6月期(△55.0)に比して同ポイントである。売上・収益は悪化傾向である。

見通しについては、売上は改善傾向、収益は悪化傾向である。

### 卸売業

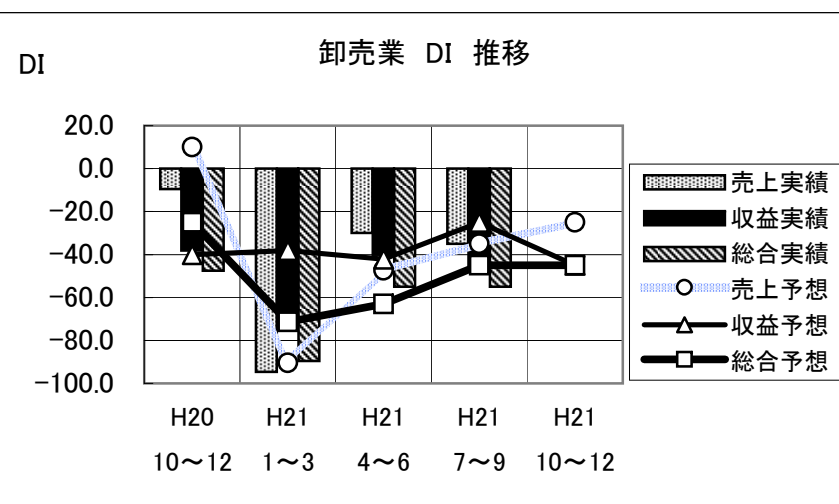
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-70.0	-35.0	-25.0
②製品・商品在庫	-45.0	-50.0	-40.0
③資金繰り	-35.0	-35.0	-25.0
④採算(収益)	-75.0	-45.0	-45.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-30.0	-25.0	-15.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-70.0	-55.0	-45.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	37.5	-44.5	-80.0	-66.7	-55.6
収益	-25.0	-66.7	-80.0	-88.9	-66.7
総合	-25.0	-44.5	-80.0	-66.7	-66.7



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-9.5	-94.7	-30.0	-35.0	-25.0
収益	-38.1	-68.4	-40.0	-45.0	-45.0
総合	-47.6	-89.5	-55.0	-55.0	-45.0

**[繊維卸]**

産業資材関連: 前期と変わらず自動車関係の急激な落ち込みから回復していないため、大変厳しい状況が続いている。今後の見通し、全体の景気回復が必須条件であるが特に繊維業界の冷え込みは大変深刻にて、今後の個人消費の回復、海外からの輸入品に対抗できる付加価値の模索など課題は多い。

寝装関連: 9月より秋・冬物の納品が始まり、季節的に商品単価、売上は増加する。夏物全般は不調に終り各メーカーとも多少在庫を残している。今後の見通し、毎年秋冬物導入期は遅くなり、9月20日すぎが最初の納入のピークになり、夏物は逆に販売シーズンは長くなり8月末までは店頭で販売されるが、売価は下がるので採算的にはどの段階でも厳しいと思われる。

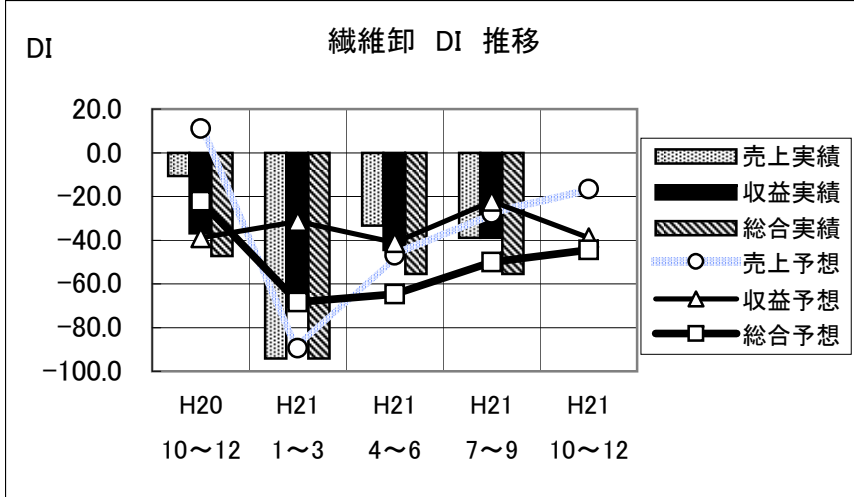
インテリア関連: 秋・冬商品の導入期であるが、新柄が非常に少ない為一斉導入による売上げが見込めない。今後の見通し、秋・冬物のシーズンであるが、インテリア関連に消費を回すまで景気が回復していない為売上・利益ともに苦戦である。

衣料関連: 消費低迷不振にて、売れない。川上は「半分」が普通である。最も悪いのは衣料品である。今後の見通し、資材関係の仕事が戻ってきて織スペースは多少回復している10月からのシーズンインに期待している。(繊維部会)

**(繊維卸)**

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-38.9	-16.7
②製品・商品在庫	-50.0	-55.6	-44.4
③資金繰り	-38.9	-38.9	-27.8
④採算(収益)	-72.2	-38.9	-38.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-27.8	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-72.2	-55.5	-44.5



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-10.6	-94.1	-33.3	-38.9	-16.7
収益	-36.8	-70.6	-44.5	-38.9	-38.9
総合	-47.3	-94.1	-55.5	-55.5	-44.5

**小売業**

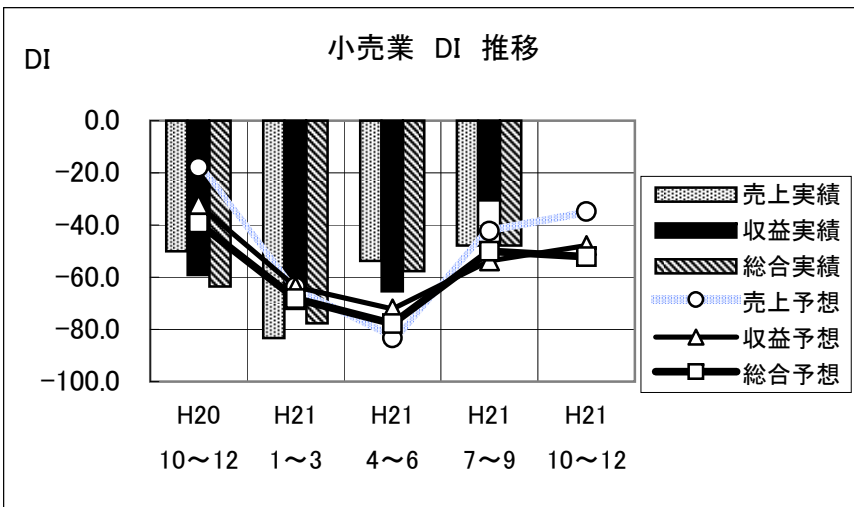
売上DI値は△47.9、前期実績4～6月期(△53.8)に比して5.9ポイントの上昇。収益DI値は△30.5、前期実績4～6月期(△65.4)に比して34.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△47.9、前期実績4～6月期(△57.7)に比して9.8ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。見通しについては、売上・収益は改善傾向、総合は悪化傾向である。

蒲郡市内の各個店・大型店ともに、売上の停滞・減少をしており、厳しい状況となっている。不況により、消費者の購買意欲が減少し、衣料他節約できるものについては購入を控える消費者心理が感じられる。また天候不順の影響により夏物商品の売上が伸びなかった。定額給付金やプレミアム付きの地域商品券(蒲郡GOGO商品券)は、地域の消費の拡大に少しは効果があったと思われる。向こう3ヶ月の見通し 年末に向けてお歳暮や冬物商品による売上げを期待したい。(商業部会)

**小売業**

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-82.6	-47.9	-34.8
②製品・商品在庫	4.3	0.0	0.0
③資金繰り	-30.4	-26.1	-30.4
④採算(収益)	-52.2	-30.5	-47.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.1	-17.4	-17.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.9	-47.9	-52.2



<業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-50.0	-83.3	-53.8	-47.9	-34.8
収益	-59.1	-72.2	-65.4	-30.5	-47.9
総合	-63.6	-77.7	-57.7	-47.9	-52.2



## [飲食]

今期について、特に大きな変化というものはない。同業者からは悪いという意見がよく聞かれたが、目立った動きはあまりなかったと感じている。

### 向こう3ヶ月の見通し

忘年会等の時期ではあるが、消費者の節約ムードが高まっており、厳しい状況に変わりはないと思われる。団体客等呼び込むチャンスなので、積極的な集客につとめたいと考えている。

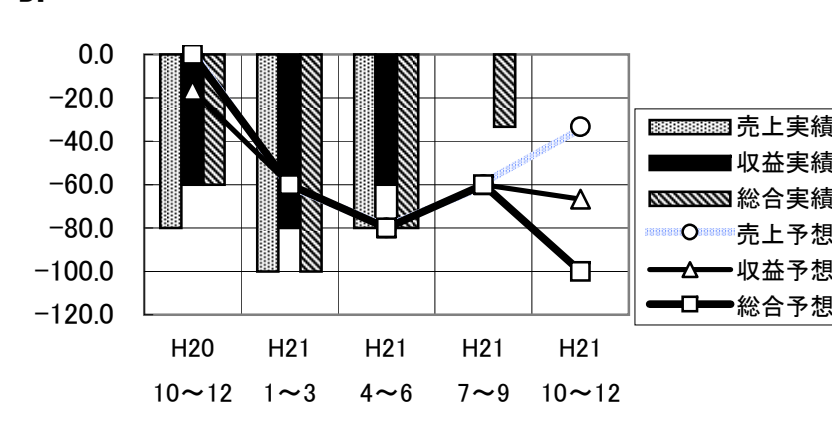
(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

## (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	0.0	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-33.3	0.0	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	-33.4	-100.0

DI 飲食 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-80.0	-100.0	-80.0	0.0	-33.3
収益	-60.0	-80.0	-60.0	0.0	-66.7
総合	-60.0	-100.0	-80.0	-33.4	-100.0

## [石油等その他小売]

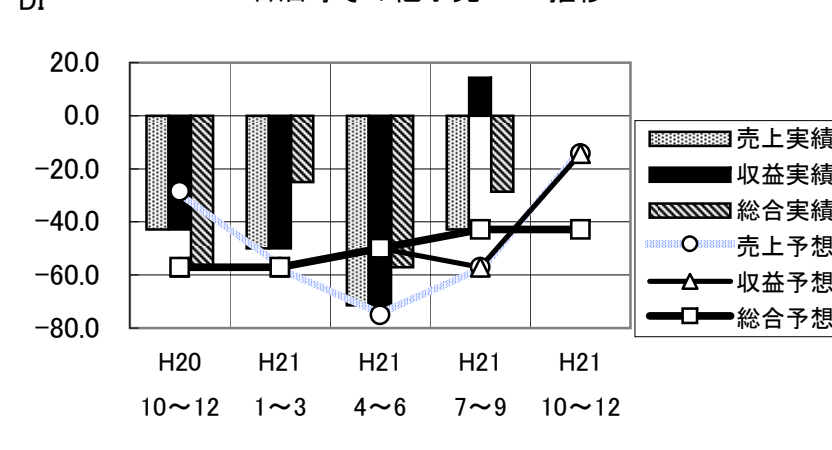
WTI原油先物の動向としては、7月前半は50ドル台で推移、後半から原油在庫の減少、米主要企業の良好な決算による景気回復への期待からエネルギー需要拡大観測が膨らみ、60ドル台後半をつけ、8月には67ドル～75ドル台まで続伸した。9月には、中国株の急落を受けて下落や、ドルの急落による商品市場への資金流入から続伸するなど、上下落を繰り返した。世界需要が前年を大きく下回り、またOPEC諸国は生産目標を下げ十分な増産余力を保持しており、地政学的リスクの影響を受けづらい環境にあるため、今後も株価やドル相場などの影響を受けての70ドルを挟んだ調整される相場が維持されると思われる。こうした状況を受け、国内のコスト動向は、某元売の公表で前月比7月+8.1円/L、8月+0.9円/L、9月+3.9円/Lとされたが、需要が回復していない中、在庫の増加もあり、極端な値動きは無かった。SS業界では、低マージンであるセルフ化の進行により販売競争が激化している中、前年同期比で軒並み売上減少となり、ガソリン需要の減退による販売不振がさらに深刻な状況となっている。(エネルギー一部会)

## (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-42.8	-14.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-28.6	-14.3	-28.6
④採算(収益)	-42.8	14.3	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-57.1	-28.6	-42.9

DI 石油等その他小売 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-42.8	-50.0	-71.4	-42.8	-14.3
収益	-42.8	-50.0	-71.4	14.3	-14.3
総合	-57.1	-25.0	-57.1	-28.6	-42.9

## サービス業

売上DI値は△25.0、前期実績4～6月期(△55.6)に比して30.6ポイントの上昇、収益DI値は△75.0、前期実績4～6月期(△66.7)に比して8.3ポイントの下降、総合判断DI値は△25.0、前期実績4～6月期(△33.3)に比して8.3ポイントの上昇と、売上・総合は改善傾向、収益は悪化傾向である。

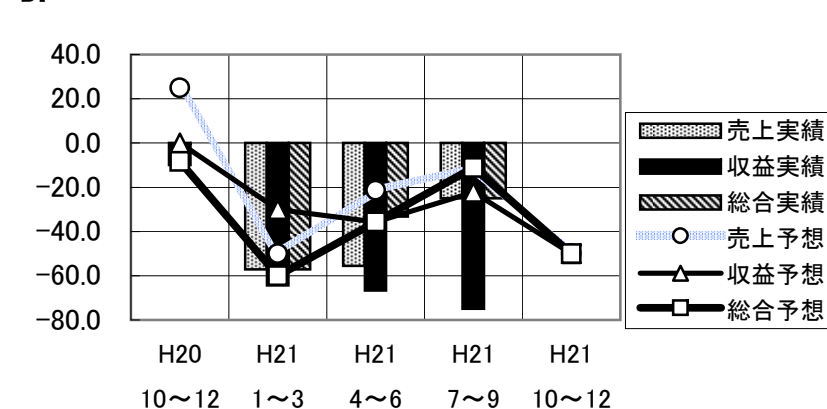
見通しとしては、売上・収益・総合ともに悪化傾向である。

### サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-75.0	-25.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-75.0	-75.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-75.0	-50.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-25.0	-50.0

### サービス業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	0.0	-57.2	-55.6	-25.0	-50.0
収益	-10.0	-64.3	-66.7	-75.0	-50.0
総合	0.0	-57.2	-33.3	-25.0	-50.0

## 【旅館】

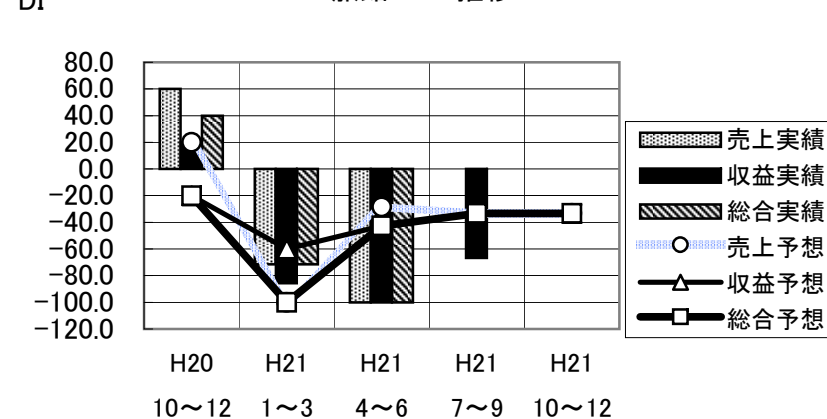
今期の宿泊客は対前年比マイナスだった。これには天候不順によるところが大きく、さらに今の経済情勢と相まってお金をかけずに旅行する人が増えた事が最大の原因である。9月後半にある連休での宿泊客の動きも鈍かった。このようにお金をかけない旅行が増えつつある中、日帰りのお客は増加した。高速道路休日1,000円もこうした状況に拍車をかけている。向こう3ヶ月の見通し この時期のマイナス要因として最も懸念されるのが、新型インフルエンザの流行による影響だといえる。プラス要因としては、昨年のトヨタショックが落ち着いてきた影響もあり、年末の忘年会が昨年よりプラスになる見込みである事があげられる。また、蒲郡全体としてアピールが足りないと感じるので、癒しとアンチエイジングの郷のように、当地でしかやらないものだという発信を今後積極的に展開し、蒲郡のPRにつとめたい。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	0.0	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-66.7	-66.7	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-100.0	-66.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-33.3

### 旅館 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	60.0	-71.4	-100.0	0.0	-33.3
収益	20.0	-85.7	-100.0	-66.7	-33.3
総合	40.0	-71.4	-100.0	0.0	-33.3

## 運輸通信業

売上DI値は△50.0、前期実績4～6月期(△62.5)に比して12.5ポイントの上昇、収益DI値は△66.7、前期実績4～6月期(△75.0)に比して8.3ポイント上昇、総合判断DI値は△33.3、前期実績4～6月期(△62.5)に比して29.2ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

見通しについても、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	0.0
③資金繰り	-16.7	-16.7	-16.7
④採算(収益)	-83.3	-66.7	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-66.7	-16.7	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	-33.3	0.0

### [旅客・貨物輸送・水運]

海運関係:木材の輸入があり、コークスの輸入、スクラップの輸出がわずかながら再開された。継続されるか不透明であるが回復の兆しが見られた。今後の見通し、輸入が継続されるか判断を許されないが、今期と同水準で推移すると思われる。三菱自動車の輸出は増加が見込まれる。

バス業界関係:団体旅行は不況の影響にて減少した。個人旅行は一人当りの単価は下がっているが客数は増加した。今後の見通し、新型インフルエンザの影響で個人団体旅行ともに控え気味にて減少見込みである。その分近場の忘年会予約等増加すると思われる。

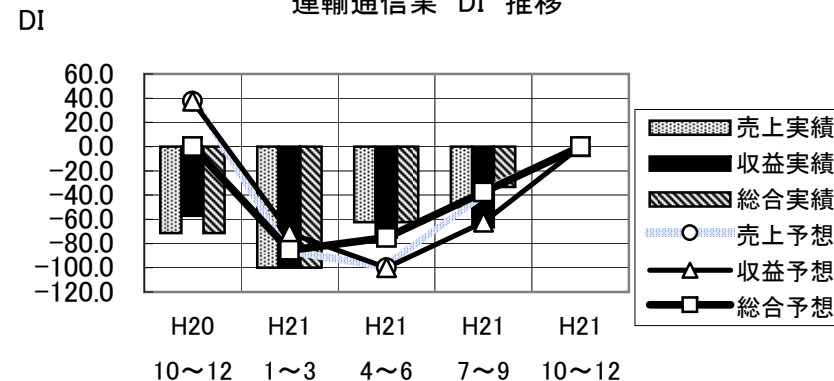
(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成20年7月～9月 に比べて	前期比 平成21年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成21年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-25.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-75.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-75.0	-25.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	-25.0	0.0

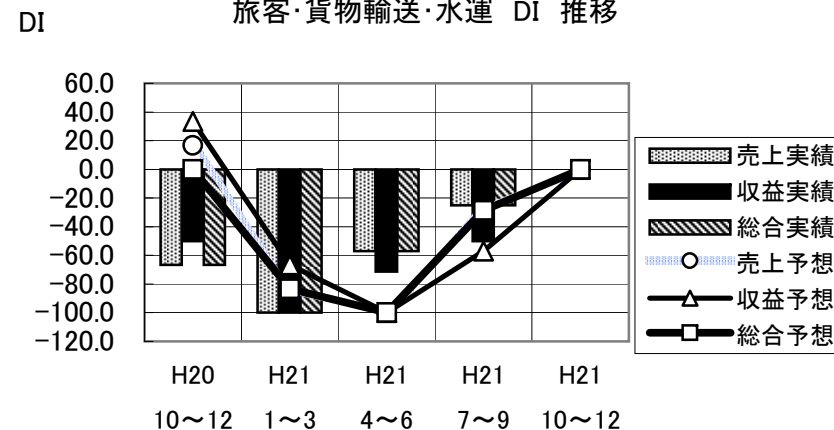
### 運輸通信業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-71.4	-100.0	-62.5	-50.0	0.0
収益	-57.1	-100.0	-75.0	-66.7	0.0
総合	-71.4	-100.0	-62.5	-33.3	0.0

### 旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

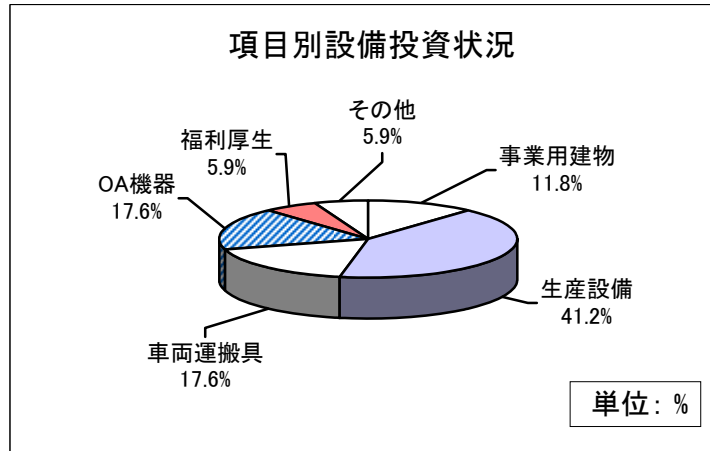
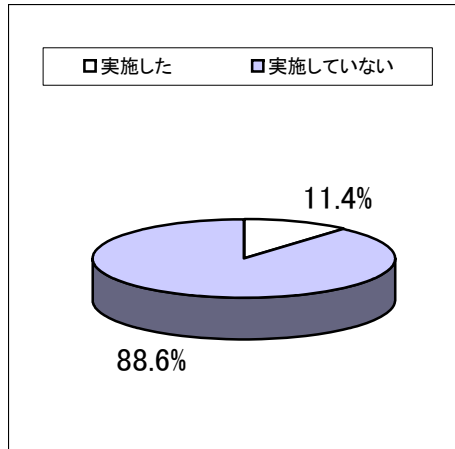


### <業況判断DIの推移>

	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-66.6	-100.0	-57.1	-25.0	0.0
収益	-50.0	-100.0	-71.4	-50.0	0.0
総合	-66.6	-100.0	-57.1	-25.0	0.0

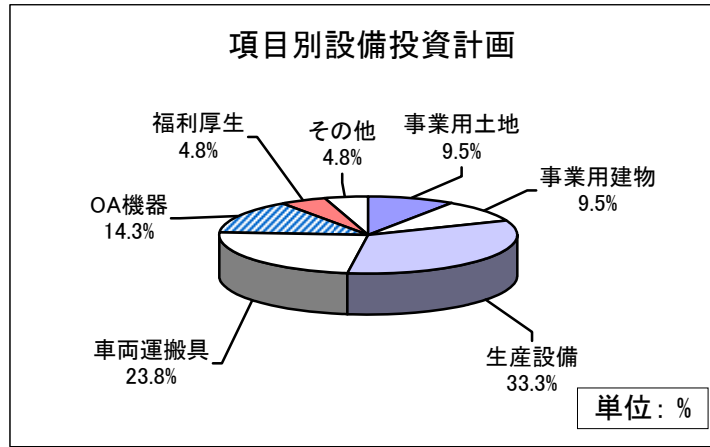
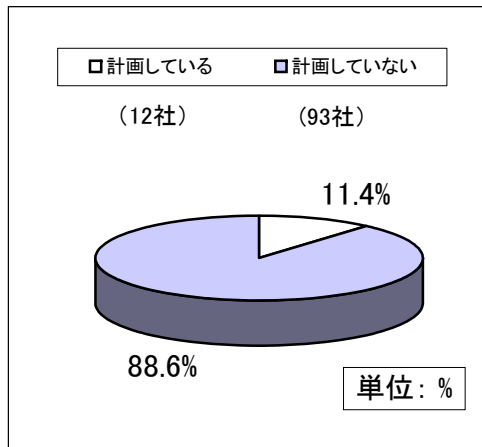
## 7. 設備投資動向

＜今期(H21. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



◎ H21. 7～9月期に設備投資を実施した企業は、12社(11.4%)あり、項目別には17件ある。そのうち生産設備(41.2%)、車両運搬具(17.6%)、OA機器(17.6%)、事業用建物(11.8%)、福利厚生(5.9%)、その他(5.9%)に投資された。  
◎ H21.10～12月期に設備投資計画のある企業は、12社(11.4%)あり、項目別には21件ある。そのうち、生産設備(33.3%)、車両運搬具(23.8%)、OA機器(14.3%)、事業用建物(9.5%)、事業用土地(9.5%)、福利厚生(4.8%)、その他(4.8%)の投資計画である。

＜来期(H21. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	0	2
事業用建物	2	2
生産設備	7	7
車両運搬具	3	5
OA機器	3	3
福利厚生	1	1
その他	1	1
計	17	21

(単位：件)

◎今期(H21.7～9月)、来期(H21.10～12月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H21. 7～9月)	12	10	0	1	1	0	0
2. 来期 (H21. 10～12月)	12	8	1	0	1	0	2

(単位：事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 105 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	89 84.8%
2	利幅の縮小	60 57.1%
3	競争激化	50 47.6%
4	消費者ニーズの変化の対応	15 14.3%
5	販売納入先からの値下げ要請	14 13.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

◎ 項目別経営上の問題点は、上位1位～3位について前回と同じ項目順位にて、4位5位が入れ替わった。

◎ 業種別経営上の問題点では、製造業・卸売業・小売業では1位に売上の停滞減少をあげ、運輸通信業では利幅の縮小をあげ、建設業では競争激化・利幅の縮小が同率1位であり、サービス業では売上の停滞減少・競争激化・利幅の縮小が同率である。

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 43 社	利幅の縮小 25 社 58.1%	競争激化 20 社 46.5%
建設業	競争激化 9 社	利幅の縮小 8 社 88.9%	売上の停滞・減少 6 社 66.7%
卸売業	売上の停滞・減少 20 社	利幅の縮小 10 社 50.0%	競争激化 9 社 45.0%
小売業	売上の停滞・減少 23 社	利幅の縮小 11 社 47.8%	競争激化 9 社 39.1%
サービス業	売上の停滞・減少 4 社	競争激化 2 社 50.0%	利幅の縮小 2 社 50.0%
運輸通信業	利幅の縮小 6 社	売上の停滞・減少 2 社 33.3%	競争激化 2 社 33.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)



## 付帯調査(地域データ)

No.44

番号	調査項目	単位	H21. 10報告	基準日	H21. 7報告	基準日	H21. 4報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,536	H21.10.1	81,512	H21.7.1	81,515	H21.4.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	28,959	H21.10.1	28,916	H21.7.1	28,838	H21.4.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	52,085	H21.10.1	52,212	H21.7.1	52,278	H21.4.1	市民課
4	外国人登録者数	人	2,125	H21.10.1	2,146	H21.7.1	2,213	H21.4.1	〃
5	建築確認届出件数	件	129	H21.6～H21.8月	92	H21.3～H21.5月	112	H20.12～H21.2月	建築住宅課受付件数
6	全国完全失業率	%	5.5	H21.8月	5.2	H21.5月	4.4	H21.2月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	5.1	H21.4～6月	3.9	H21.1～3月	2.9	H20.10～12月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.42	H21.8月	0.44	H21.5月	0.59	H21.2月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.24	H21.8月	0.24	H21.5月	0.39	H21.2月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所(業務月報より)

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	707.7
1997年度	236	3.5	0.69	▲3.9	1,341,347	520	0.2	▲0.2	672.5
1998年度	294	4.3	0.5	▲18.6	1,179,536	514	▲0.8	▲0.8	587.9
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508	0.9	▲1.8	586.1
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	513	3.0	▲1.2	596.3
2001年度	平均 340	5.0	0.59	▲12.6	1,173,170	492.3	▲0.8	▲3.4	582.5
2002年度	359	5.4	0.54	▲3.7	1,145,553	489.9	▲0.8	▲0.6	586.8
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	493.7	2.1	▲0.2	589.1
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.5	2.0	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	503.2	2.3	▲0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	510.9	2.3	▲2.2	561.9
2007年1月	264	4.0	1.06	2.6	92,219			0.6	37.1
2月	270	4.0	1.05	▲4.2	87,360	518.3	5.3	1.3	50.5
3月	281	4.0	1.05	▲5.8	99,488			0.1	76.7
4月	268	3.8	1.05	▲9.0	107,255			1.1	35.8
5月	258	3.8	1.06	▲3.1	97,076	517.8	0.1	0.4	37.9
6月	241	3.7	1.07	▲17.9	121,149			0.1	46.2
7月	234	3.6	1.06	8.0	81,714			▲0.1	43.9
8月	249	3.8	1.05	▲2.6	63,076	511.1	▲1.3	1.6	34.7
9月	269	4.0	1.04	▲7.0	63,018			3.2	50.0
10月	271	3.9	1.02	3.3	76,920			0.6	40.6
11月	246	3.8	1.00	0.9	84,252	514.9	3.4	▲0.6	45.1
12月	231	3.8	0.98	▲3.3	87,214			2.2	36.8
2008年1月	256	3.8	0.98	11.4	86,971			3.6	37.7
2月	266	3.9	0.98	2.4	82,962	519.7	3.5	0.0	50.3
3月	268	3.8	0.95	▲6.2	83,991			▲1.6	73.1
4月	275	4.0	0.93	0.5	97,930			▲2.7	36.9
5月	270	4.0	0.93	5.1	90,804	* 514.3	* ▲2.8	▲3.2	36.1
6月	265	4.1	0.90	9.7	100,929			▲1.8	44.7
7月	256	4.0	0.88	▲4.7	97,212			▲0.5	45.5
8月	272	4.1	0.85	▲13.0	96,905	* 500.7	* ▲5.1	▲4.0	31.0
9月	270	4.0	0.83	▲4.2	97,184			▲2.3	47.7
10月	255	3.8	0.80	▲15.5	92,123			▲3.8	37.9
11月	256	4.0	0.76	▲27.7	84,277	* 494.9	* ▲12.8	▲0.5	36.9
12月	270	4.3	0.73	▲26.8	82,197			▲4.6	30.6
2009年1月	277	4.1	0.67	▲39.5	70,688			▲5.9	30.2
2月	299	4.4	0.59	▲30.1	62,303	* 481.4	* ▲12.4	▲3.5	38.1
3月	335	4.8	0.52	▲22.2	66,628			▲0.4	54.6
4月	346	5.0	0.46	▲32.8	66,198			▲1.3	28.4
5月	347	5.2	0.44	▲38.3	62,805	* 478.8	* 2.3	0.3	29.2
6月	348	5.4	0.43	▲29.7	68,268			0.2	38.2
7月	359	5.7	0.42	▲34.8	65,974			▲2.0	43.1
8月	361	5.5	0.42	-	59,749	-	-	2.6	30.9

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

\*は速報値(内閣府)

\* 47.8 (9月)